

清瀬市お口のパスポート事業

～科学院歯科衛生士研修会から生まれた成人歯科保健対策～

所属：清瀬市健康福祉部健康推進課

発表者：牟田口郷子

【目的】成人歯科健診においては一般に、受診率が低い、効果が確認できないなど問題点があり、当清瀬市（人口7万3千人、年間出生数約550人）、では未取組であった。しかしながら平成21年度より、予防効果及び波及効果の期待できる集団にターゲットを絞り、継続的に働きかけることにより、市民の歯科口腔に関する健康感を育て、歯科保健向上を図ることを目的とした事業展開を行うこととなった。本報告では乳幼児歯科事業参加の保護者を対象に行った成人歯科保健対策について述べたい。

【方法】平成9年度より、8か月～4歳児を対象に行っていた健康教育、定期健診などの乳幼児歯科事業を「親子歯科事業」とし、保護者を対象に、歯科健康教育、健診、指導を実施した。短時間で効率良く行なうために、初回健診のみ、要治療むし歯の有無、地域歯周疾患指標CPI、口腔評価指数ORI、2回目以降は10秒間で歯肉の状態をチェックするORIのみとし、毎回、口腔ケア指導を行った。健診結果、指導内容を「お口のパスポート」に記録し、かかりつけ歯科医の紹介及び橋渡しをした。なお、本事業は、財源として東京都医療保健政策区市町村包括補助の先駆的事業（3年間、補助率10/10、以降1/2）の採択を受け実施した。

【結果】平成21年度後期～23年度、初回健康教育受講者476名（対象者約1650名）、初回健診受診者422名、うち習った歯磨き法を実行していると答えた者が351名であった。来所者には毎回、口腔衛生指導を行い必要に応じ歯科医院を紹介した。3ヵ月後の健診受診者は339名、うち習った歯磨き方法を配偶者や家族に教えた者が230名であった。3年間実施し「口腔ケアに前向きな人が増えた」「家族そろって参加する人が増えた」など効果を実感している。

【考察】子育て中の保護者は、自身のための歯科健診、受診をしにくい状況にある。また、その世代は働き盛りであり、仕事を優先し受診を後回しにする傾向もある。一方、子どもや家族の健康には関心が高く、継続的に指導、啓発することで、対象者のみならず家族への波及が見られた。成人の口腔の健康を保つには、日常の歯磨きや自己観察、食生活などの「セルフケア」と、歯科医院での定期健診や歯のクリーニング、口腔ケア指導などの「プロフェッショナルケア」の『車の両輪』が不可欠である。この事業では子どもが8か月～4歳までの約3年間に、10数回にわたり継続的に指導を行い、地域歯科医療への橋渡しをすることができる。対象者は子どもの成長に伴い、年間200余名ずつ入れ替わってゆくため、長く続けることで地域歯科保健の向上を図ることができる。【終わりに】この事業は、平成22年度科学院歯科衛生士研修会のグループワークのテーマに取り上げていただき、指導者及び受講者より提案、助言を受け立案した。科学院及び関係者に心より御礼申し上げたい。